

平成 28 年 6 月 16 日

広島経済同友会 産業・技術委員会企業見学会 報告

産業・技術委員会 小倉芳暢

**【概要】**

|         |   |
|---------|---|
| 日 時     | 平成 28 年 6 月 13 日 (月)  |
| 訪問企業    | ツネイシホールディング株式会社   |
| 卓 話     | 常石造船株式会社 常務取締役 西山周作氏<br>株式会社せとうち SEAPLANES 代表取締役副社長 松本武徳氏<br>会場：常石造船安全研修センター  |
| 進水式見学   | バルクキャリア (ばら積み貨物船) 載荷重量トン数 : 約 81,600mt<br>全長×船幅×深さ : 約 229m × 32.26m × 20.00m |
| 水上飛行機見学 | KODIAK100   |
| 会 食     | ベラビスタ境ガ浜 (ベラビスタ スパ&マリーナ尾道)  |

**「威風堂々」の進水式**

進水式を初めて見たが、遥かに高く見上げていた 8 万トンの貨物船が、想像していたよりも早いスピードで轟然と海に滑り降りていく様子は、まさに「威風堂々」。

日本の重厚長大産業の一角を担ってきた「造船」の迫力を目の当たりにし、畏敬の念を覚えた。2 ヶ月に 1 回行われる進水式は一般にも開放されており、その模様は即日 WEB にアップされている。

1980 年代、日本の造船業は 5 割以上のシェアを誇る世界のトップランナーであったが、韓国・中国勢が安値を武器に猛追、追い越され、3 位に転落。シェアも 2 割台に下がっていった。今や、造船大国と言えば韓国の時代。しかしながら「アベノミクス」による円安で競争力が回復、コスト削減も奏功、品質への高評価も有り、日本の造船業は息を吹き返しつつある。2015 年 1 月単月では韓国・中国を抜き 1 位に返り咲いた。

今回企業見学した常石造船は、新造船建造量では国内 3 位。世界の造船業の中でもベスト 10 に入る大手。50 万㎡という広大な敷地に聳え立つクレーン・巨大なドックは壮観。海外造船所・工場も中国 (舟山・上海) フィリピン・パラグアイとグローバルに展開している。

日本造船業界の中核企業が広島に存在していることに県民として誇りを持った。

今回、浸水式を見学した船は常石造船が開発した「カムサバックスバルクキャリア」とい

う 8 万トン級の貨物船で、高い輸送効率・低燃費が評価され「中型ばら積み貨物船」では世界のトップシェアを誇り、200 隻が世界の海を航行しているという。

ツネイシホールディングは造船事業・海運事業・環境事業・エネルギー事業・ライフ&リゾート事業の 5 つの事業領域を持つ。(造船事業は全体の売上 2,383 億の 70%)  
今回は、同社がここ数年力を注いでいるライフ&リゾート事業も見学・体験した。

### 水陸両用機 KODIAK

予備知識全く無く卓話を聞き、飛行機を見た。森信代表幹事の「西飛行場に来てくれたらいいのだが」と言う発言で納得した。不勉強を恥じたい。

ツネイシホールディングは 2015 年にこの飛行機を製造する Qest Aircraft 社を買収。グループ会社である(株)せとうち SEA PLANE が遊覧飛行・チャーター便を運行する。現在、3 機保有し近々営業開始予定。しまなみ街道の本州側の玄関口である尾道を拠点に瀬戸内海を遊覧飛行する。10 人乗り、30 分の遊覧で 1 人 3 万円が高いか安いかを思案しながら周りを見回すと、マリーナ、リゾートホテル…。ターゲットはある程度の富裕層ということか。水上飛行機による遊覧飛行は日本では半世紀途絶えているとのこと。見学者は興味津々で操縦桿を握ってみたり、座り心地を試したりと乗る気満々だった。

瀬戸内海を他の観光エリアと差別化するツールにもなるだろうが、むしろ海外の高級リゾートのように、

このリゾートエリアの高級感を演出するファクターだろうと思う。

### ベラビスタ境ガ浜

一般には「ベラビスタ境ガ浜」と言われているが、2015 年 7 月「ベラビスタ スパ&マリーナ尾道」に名称変更している。元は常石造船の船主などの顧客用に作られた迎賓施設。2007 年に大規模にリニューアルし高級リゾートホテルに生まれ変わった。ホテルにはプール、スパ、ガーデンデッキがあり、全国でも有数のリゾートホテルである。眼下のマリーナ、前述の水上飛行機基地などと相まって魅力的なリゾートエリアを形成している。ツネイシホールディングの L&R (ライフ&リゾート) 事業の中核的存在。特に最近、家庭画報を始めとするセレブ系雑誌に星野リゾートなどと並んで取り上げられ注目を浴びている。訪れた人たちの評判も良く、口コミで広がっている。

レストラン「エレテギア」でワインと上質な料理を堪能した。プールの向こうに瀬戸内海を望み、徐々に落ちていく夕日に心を動かされた一時だった。



#### まとめ

創業 100 年を超える造船事業で、日本・世界での高いポジションを維持しつつ、リゾート開発にも大きな成功を収めていることに改めて感動した。

瀬戸内海という風光明媚な環境があったにしても、リゾートの形成には造船業とは全く違った価値観が必要であったと思う。

経営者のセンスと勇気、壮大な夢を形にしていたエネルギーと持続力に敬服する。そして有能なスタッフの存在も想像に難くない。

今後、このエリアが瀬戸内海観光のプレゼンスをあげていく拠点として、ますます重要な役割を果たして欲しい。そして他のエリアへの波及効果にも期待したい。

言うまでもないが、造船事業は、環境に配慮した優れた技術開発力、建造力で世界をリードしている。造船大国日本復活への中核的な存在として、さらなる発展を祈念したい。